

学校はなぜ忙しくなったか ～高校教育制度の激変(1989年以降)～

1989年「学習指導要領」改訂
 ①臨教審の答申に呼応した内容に
 ②臨教審は画一的、閉鎖的あり方を批判
 「新しい学力観」「観点別評価」「絶対評価」

1998年 教課審答申「ゆとり教育、授業内容3割削減」
学習指導要領改訂（総合的学習が主）
 「確かな学力」
 生きる力、自己責任、受益者負担

2006年 教育基本法「改正」・学校教育法改定
 中教審「今後の教員養成・免許制度の在り方について」答申

2008年 新学習指導要領発表

(1984年 学校教育法一部改正—公立高校入試の弾力化)

1990年 高校入試改変Ⅰ ①推薦制度、②合同選抜校を除く全受験者への面接、③全・定別日程入試

1994年 高校入試改変Ⅱ
 ①調査書様式改訂 ②佐世保中央高での傾斜配点
 ③大村高校理数科新設 ④職業科の推薦入学枠弾力化 ⑤定時制入試の前期・後期の2回実施

1996年 高校入試改変Ⅲ
 県下34校の普通科・理数科に推薦入学制度

1991年 中教審答申
 「新しい時代に対応する教育諸制度の改革について」

1996年 橋本「教育改革プログラム」 ①中高一貫教育の選択的導入 ②大学入学年齢規制緩和 ③学校五日制完全実施

1997年 規制緩和で通学区弾力化・飛び級・中高一貫教育を提言
 中教審第2次答申「新自由主義」

1992年 第一期県教育振興懇話会
 「公立学校入学者選抜方法改善協議会」設置

1995年 教育振興懇話会「長崎県高等学校の適正配置に関する基本的方策について」報告

2003年 長崎県立高等学校教育改革第二次実施計画 ①通学区見直し ②総合選抜制廃止 ③一般推薦の拡充 ④志願校変更 ⑤傾斜配点 ⑥海外帰国生徒の特例配置、離島留学制度

2002年
特色ある学校づくり

1996年 リフレッシュ休暇制度導入
 1998年 県内3校に総合学科設置校種間の「研修交流人事」導入
 県立中高一貫教育研究協議会報告

2006年
長崎県教育振興基本計画発表

2004年
「自宅研修」廃止

2002年 「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開
 「豊かな人間性や自ら学び考える力などの『生きる力』を育成」
 文部科学省「夏季休業期間等における公立学校の教育職員の勤務管理について」を各都道府県教育委員会へ通知
「自宅研修」剥奪

2000年 学校評議員制度導入・校長、教頭の資格要件緩和・職員会議の位置づけの明確化

2001年 省庁再編により文部科学省に改称
 「教育振興基本計画の策定」「新しい時代にふさわしい教育基本法の在り方について」中教審へ諮問
 中教審「今後の教員免許制度の在り方について」

凡例
 国・文科省の政策
 長崎県の教育行政
 学校現場の変化

学校現場の変化

1996年3月閉校 対馬高校定時制
 2000年3月閉校 長崎西通信・長崎市立高校
 2005年3月閉校 松浦鷹島分校
 2007年3月閉校 諫早高来分校・西陵東長崎分校
 野崎養護 有馬商業
 2008年3月閉校 長崎南商業・式見
 2011年3月閉校 野母崎・富江・松浦東

1995年 総合選抜校に文系・理系コース導入
 1996年 40人学級 佐世保中央高校全課程単位制に移行 五島定・長崎西通定通併修による三卒制導入
 2002年 虹の原養護学校設立
 2003年 理数科（長崎北陽台・島原・諫早・猶興館） 離島留学制度導入（五島・壱岐・対馬・猶興館大島）
 「総合的な学習の時間」学年進行で実施
 2004年 中高一貫校開設（併設型）開設（長崎東・佐世保北） 小浜高校にビジネス・観光学科導入
 2005年 鶴南養護高等部五島分教室設置（五島海陽） 島原養護高等部設置
 2006年 自己管理目標シート試行 鶴南養護時津分教室設置
 2007年 自己管理目標シート本格実施 虹の原養護壱岐分教室設置
 2008年 教職員に県バッジ着用を義務づける

1998年 総合学科開設（琴海→長崎明誠・大村園芸→大村城南・佐世保東商→佐世保東翔）
 2003年 総合学科開設（北松南→清峰）
 理数科（長崎北陽台・島原・諫早・猶興館）
 2004年 総合学科開設（平戸・島原南→島原翔南）
 2005年 総合学科開設（五島商→五島海陽）
 2006年 総合学科開設（長崎水産→長崎鶴洋）

長崎県高等学校教職員組合
 県立障害児学校・高等学校教職員組合民主教育研究所
 2008年7月26日